



山鹿市の北東、標高三八メートルの山腹に屹立する不動岩は、第三紀層の凝灰岩から成る巨岩。前不動・中不動・後不動の三群から成る。九州自然歩道史跡探勝コースとして親しまれている。

珉石穴工のみぞ知る「伝説」の岩

大地から生えたように天に向かつて拳を突き上げている。テコでも動かぬ険しい形相。人を拒むような大地のエネルギーには、カミ、地霊としか名付けようがない厳かさがある。古の人々もきつとそう感じていたであろう。

昔、山伏たちがこの山中にこもり、『不動明王』を本尊として修行していたという。そのことから「不動岩」の名が起った。明治四十年、岩の根元から八百余年前に書かれた『経筒』が発掘され、古代の信仰を今に伝えている。

この山を舞台とした勇ましい伝説も残っている。

——小豆を食べて大切に育てられた不動岩と、大豆を食べて体を鍛えた彦彦権現の二人の異母兄弟が首綱引きで力くらべをした。日頃の精進のためか彦彦権現が勝ち、不動岩の首は二人の中間に飛んで落ち、今の奇岩の様相になった。その時、流れ出た血でこの一帯の土は赤土になったという。

実際に「首石」と呼ばれる岩と峠が残り、信仰も、伝説も風化することなく語り継がれている。

九州自然歩道を利用して後不動へ登ってみた。前不動のその先には春霞みの平野が広がる。右手に震岳、その奥に彦彦の勇姿が小さくあった。二つの山はこれほど遠く離れて立っていたのか。擬人化した山と山の綱引き伝説。民俗学者の柳田国男氏も、伝説のスケールの大きさに感嘆の言葉を残している。

桜並木が山道に華やかさを添えていた。直立の前不動は、目の前だ。高さ約七十メートル。見上げなければ視界には入らない。常人の足ではとても登れそうにない。ロッククライマーが頂上に立ったという話も聞かない。山伏たちは、きり立ったこの岩で修業をしたのであろうか。いや、未だ前人未到の巨岩なのかもしれない……。